



TITLE:

戦亂ト英國ノ海運(一)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 戦亂ト英國ノ海運(一). 經濟論叢 1918, 6(1): 142-144

ISSUE DATE:

1918-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127311>

RIGHT:

戰亂ト英國ノ海運(二)

小島 昌太郎

本稿は Edgar Craunmond 氏ノ近著 The British Shipping Industry 中ノ一節、戰亂中ノ英國海運ト題スル部分ノ概要ヲ紹介スル目的ヲ以テ起稿シタルモノデアルガ、間々余ノ手許ニアル二三ノ材料ヲ附加シタ所デアル。

一 戰時海上保險ノ官營 戰亂ノ勃發ガ英國ノ海運ニ及ボシタル第一ノ影響ハ海上保險料率ノ暴騰ニヨリテデアル。澳露間ニ國際的紛爭ヲ惹起シタル當時ニ於テハ、未ダ海上保險ニ於テ戰時料率ハ課セラレテヤナカツタ、ガ、此紛爭ガ遂ニ英獨間ニ及ブニ至リテ四磅%ノ戰時料率ガ課セラルルコトトナツタ。而シテ愈々英獨ガ砲火ノ裡ニ相見ユルニ至ツテハ一躍十ぎにあ騰リ、宣戰布告後ノ第二日目ニハ二十ぎにあトナツタ。

カクノ如キ大變態ガ起リタル場合ニ一國ノ商業界ガ、之ニ適應スルノ狀態ニ入ルニハ、ドウシテモ若干ノ時日ヲ要スル。サレバ英國ノ海運界モ戰亂勃發ト共ニ、海上保險料率ノ暴騰ニヨ

リテ暫時停止ノ狀態ヲ呈シ、爲メニ對外貿易モ恐ルベキ危機ニ襲ハレントスルノ有様トナツク。乍併、時ノ大藏大臣ろいど・じよおじハ獨逸トノ國交斷絶ノ當日(八月四日)戰時海上保險官營ニ關スル法案ヲ議會ニ提出シテ其協賛ヲ得、翌日直チニ戰時保險局ヲ開設シ、海運并ヒニ海上保險ノ實務ニ精通セルおうえん Douglas Owenヲ舉ゲテ之ヲ主宰セシメ、次デ八月十日早クモ其第一號ノ保險證券ヲ發行スルト云フ風ニ、極メテ機敏ノ處置シトツタカラ、戰時海上保險率ノ暴騰ニヨリテ英國ノ商業交通ガ阻害セラレタノモ甚タ僅ナ間デアツタ。

附記 此ノ戰時海上保險官營ノ計畫ハ、英國ニ於テハ、久シキ以前ヨリ問題トナツテ来タモノデアツテ、今次ノ案モ決シテ閣議忽々ノ間ニ成リタルモノデナダ、戰亂以前ヨリ之ガ調査ヲ完成シシタル國防委員分科會ノ報告(The Report of a Sub-Committee of the Committee of Imperial Defence on the Insurance of British Shipping in Time of War, dated 30th. April 1914)ヲ基礎ニシタモノデアル。

此官營保險制ニヨレバ、政府ハ認可ヲ受ケタル一定ノ船主保險組合ト契約ヲ結び、ソレ等ノ組合ニ屬スル船舶ハ(英船ノ殆ト全部ハ)戰時危險

Kings' Penny War Riskノ八割迄政府ニ於テ再保險ヲナスノデアル。而シテ政府ハ一%乃至五%ノ範圍内ニ於テ料率ヲ決定シ又之ヲ變更スル權ヲ有スルデアツテ、組合ハ戰時危險ノ二割ヲ引受クル代リニ又保險料ノ二割ヲ收受スルノデアル。積荷ニ付イテモ、官營保險ノ下ニアル船舶ニヨリテ輸送セラルルモノハ、政府ニ於テ戰時保險ヲ引受クルノデアツテ、其料率ハ一%にあ%乃至五%にあ%ノ範圍内ニ於テ定メラレ積荷ノ種類并ヒニ航路ノ如何ヲ問ハズ均一デアル。此料率ハ最初五%にあ%デアツタガ、一ケ月ノ後ニハ三%トナリ、四ケ月後ニハ一%迄下落シタ。併シ一九一六年末ニハ又一寸騰ツテ二%デアツタ。

二 英船ノ軍事的活動 カクテ、此官營保險ノ運用ト海軍省ヤ外務省ノ海運保險策トニヨリテ、英船ハ著シク増加シ、開戰當時ハ船腹過剩ノ有様デアツタ。乍併、海軍省ガ軍用ノ爲メ大企模ノ船舶徵發ヲナシテ以來船腹ハ著シク缺乏シテ運賃ハ甚タシク騰貴シタ。此ノ英國政府ノ

徵發ハ最初ハ主トシテ、軍用船トシテ英艦隊ニ石炭糧食等ヲ輸送スル目的ヲ以テナサレタノデアルガ、次ニハ巡邏船、假裝巡洋艦、運送船トナスガ爲メニ徵發セラレ、遂ニハ大陸ニ於ケル英陸軍及ヒ聯合軍ニ給スル軍需品糧食輸送ノ爲メニ徵發セラルル様ニナツタ。カクテ次第ニ徵發船ノ隻數ハ増加シタ。べるすふぞ卿ガ上院ニ於テナセル演説(一九一六年五月三日)ニヨレバ開戰當初英國ハ四百噸以上ノ船舶一一、三、五三隻有シテオツタガ、其中約二千五百隻ハ徵發セラレタカラ、對外貿易ニ從事スルモノハ約八千八百隻デアルト云フコトデアル。此中又商船艦艇ニ墜沈セラレタモノノガアルカラ、實際貿易ニ從事スル隻數ハ更ニ之ヨリモ少イ。後文參照。又かあそん伯ノ演説(同日)ニヨルモ、陸海軍并ヒニ聯合國用ニ徵發セラレタル英船ハ全數ノ四三%、英政府ヤ聯合國ノ爲メニ食糧品原料品輸送ニ從事スルモノ一四%ニシテ、政府管理ノ下ニ對外商業ニ從事スルモノハ四三%ノミデアルト云フ。

英船ガ如何程聯合國軍事用ニ使用セラレテキルカハ、今日正確ニ之ヲ知ルコトヲ得ナイガ、

英國ノ有スル航洋大船全體、デ三千乃至四千隻ノ中、五百隻ハ全然佛伊露三國ノ使用ニ供セラレテキルノデアル。又リつとん伯ノ述ブル所(一九一六年五月上院ニニヨレバ過クル二年間ニ英船ガ大陸於ケル演説)ニ輸送シタルモノ、人員七百萬以上、馬匹百二十五萬頭以上、軍需品七百萬噸以上ニ達スト云フ。

三 英船ノ商業的活動 英國商船ハカクノ如ク軍事のニ貢獻スル所大デアルガ、之レト同時ニ對外貿易ニ盡ス所平時ニ比シテ、決シテ大ニ劣ツテキルノデハナイ。左ニ一九一四年七月末日ニ終ル平時一ケ年ト、一九一六年七月末日ニ終ル戰時一ケ年トノ輸入品ノ噸數ヲ比較シテ見ヤウ。

| | 一九一四年七月末 日迄ノ一ケ年間 | 一九一六年七月末 日迄ノ一ケ年間 |
|------------------------|---------------------|---------------------|
| 飲食料品及煙草 | 一六、一〇〇、六五三 | 一五、五七九、五七四 |
| 原料品及粗製品 | 二六、三七六、六五六 | 二二、五〇〇、五七六 |
| 半製品及精製品 | 六、四五一、一八五 | 三、五三七、六〇三 |
| 重量ノ表示セラレザ ル輸入品ノ推定重量 | 六、六七二、〇〇〇 | 五、六七四、六〇八 |
| 合 計 | 五五、六〇一、四九四 | 四七、二九二、三六一 |

又之ヲ英國ニ入港スル商船ノ國籍別ニ付イテ

見ルニ、外國船ノ總入港船ニ對スル割合一九一四年七月末日ニ終ル一年間ハ二三%デアツタガ、一九一七年一月末日ニ終ル一年間ハ減ジテ三二・六%トナツテキル。即チ英船ノ入港割合ハ平時ヨリモ反ツテ増加シテキルノデアル。

四 戰爭ニ因ル喪失船 次ニ戰爭ニ因ル英商船

ノ喪失如何ト見ルニ、べるすふにど卿ノ說(一九一三年二月十三日上院演說)ニヨレバ戰爭開始以來ノ損失ハ四百萬噸ニ上ルト云フコトデアル。實ニ大變ナ損害

デアル。併シ、他方ニ於テハ新造船ノ進水ヤ聯合國中立國ヨリノ購入船ガアルカラ、此損害ガ

英海運業ニ及ボス影響ハ數字ニ顯ハレテキル程大シタモノデナイ。かあそん伯ハべるすふにど

卿ノ示シタル數字ニ付イテ、之ハ單ニ戰爭ニ因ルモノバカリテナク、其他凡テノ原因ニヨル損

害ヲ含ミ、其上英國以外ノ聯合國ノ損害モ此ノ中ニ入ツテキルノデアル、一九一四年七月ニ英

國ハ一千六百噸(總噸)以上ノ船舶三千八百九十隻ヲ有シテオツタ、而シテ一九一七年一月末日

ニハソノ隻數三千五百四十隻一千六百萬噸トナ

ツタ、故ニ戰爭開始以來三十ヶ月間ニ凡テノ原因ニヨリテ失ヒタル噸數ハ殆ト五%乃至六%デアルト云フテキル。(同日)乍併英政府ガ商船ノ損失ニ付キ正確ナル報告ノ發表ヲ邀ケテキル今日ニ於テハ、到底其實際ノ損失高ハ知ルコトガデキナイ。

(未完)